
厚木市景観計画（抜粋）

厚木市景観計画全43ページのうち、
届出・協議に必要な6～25ページを抜粋しました。

〔目次〕

第 章 市全域で進める景観づくり

1 良好な景観の形成に関する方針	
(1) 景観構造	6
(2) 土地利用区分別の方針	7
2 建築物の建築等における景観誘導	
(1) 行為の届出制度	19
(2) 景観形成基準	21

平成22年10月1日施行

厚 木 市

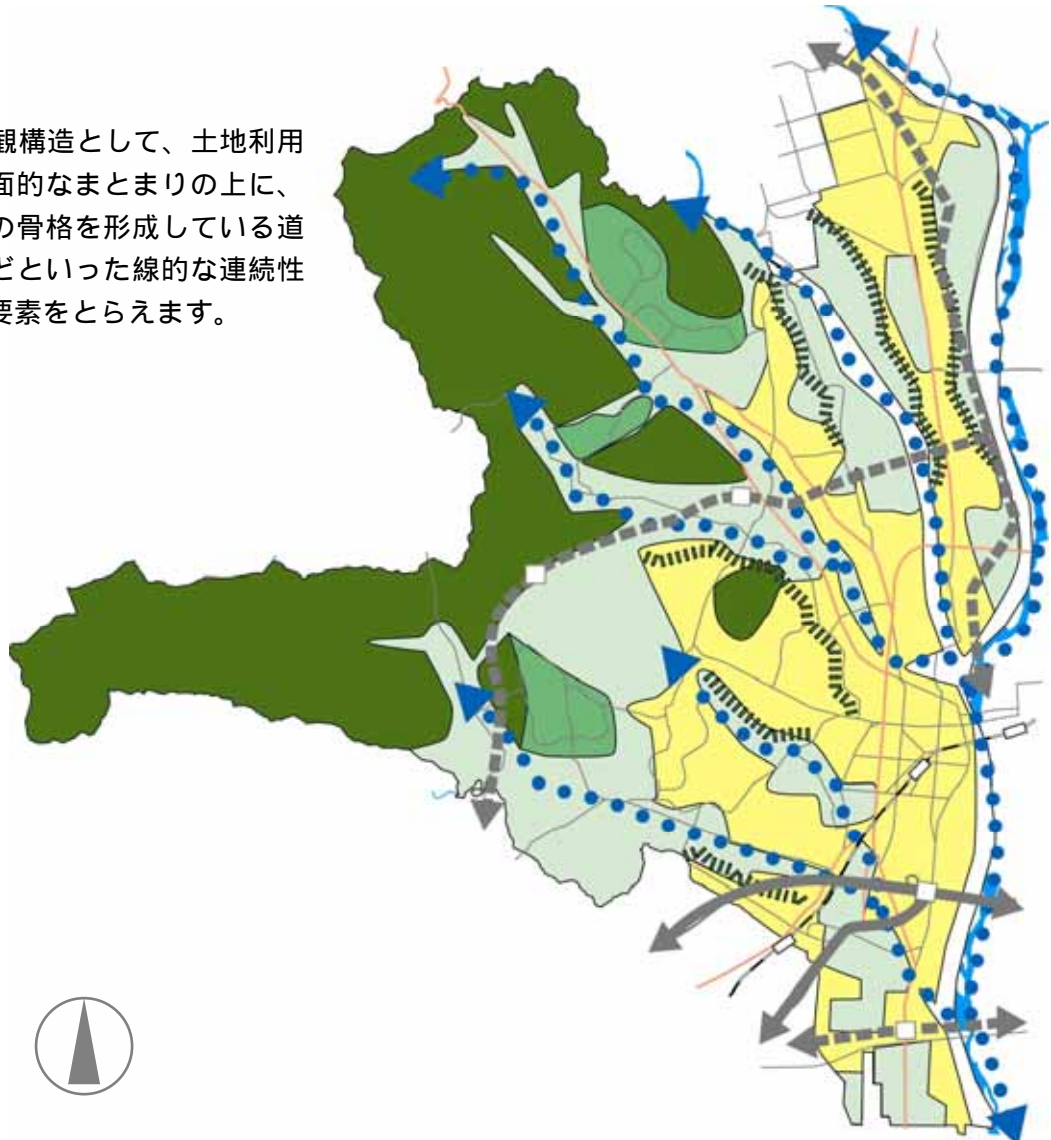
第II章 市全域で進める景観づくり

市全域（＝景観計画区域）において、景観法を活用して進める良好な景観づくりについて整理します。

1 良好な景観の形成に関する方針（法第8条第2項第2号関係）

(1) 景観構造

本市の景観構造として、土地利用などによる面的なまとまりの上に、本市の景観の骨格を形成している道路や河川などといった線的な連続性をもつ景観要素をとらえます。



土地利用に基づく面的な景観区分		線・点的な景観要素	
	a 山地景観		a 河川景観
	b 里山・田園景観		b 斜面緑地景観
	c 市街地景観		(高速道路)
	d 新市街地景観		(国道)
			(幹線道路)
			d 歴史・文化景観

(2)土地利用区分別の方針

(1)の景観構造で示した「土地利用に基づく面的な景観区分」ごとに、景観形成の方針及びガイドラインを定めます。

a 山地景観

「市内からの眺望の背景となり、四季の彩りとやすらぎを与える丹沢大山」

【景観特性】

丹沢大山山地に連なる山麓の豊かな緑が、市内から望む景観の背景となり、四季の彩りとやすらぎを与えています。

大山の麓に広がる丹沢大山国定公園や県立丹沢大山自然公園は、本市の自然に親しむことができます。

大山は、眺望の対象となっており、古くからの信仰の対象としても広域的なシンボルとなっています。

【課題】

生態系の変化に伴う樹林地の衰退
後継者問題等による樹林管理の不足
ゴミ、し尿処理などオーバーユース(*1)の顕在化

【想定する区域】

市街化調整区域のうち、土地利用が「山林」の区域



七沢（丹沢大山国定公園）
出典：(財)神奈川県公園協会ホームページ



【景観形成の目標】

都市に近接した貴重な自然資源として、雄大な丹沢大山山地の魅力ある自然景観の保全と自然に親しむレクリエーションの場としての活用の両立を目指します。

【景観形成の方針】

まとまりのある樹林地の保全

地域の背景となる山なみの自然環境を保全するとともに、これらの自然との調和を図った景観形成に努めます。

自然に親しむレクリエーションの場としての活用

大山の麓に広がる丹沢大山国定公園や県立丹沢大山自然公園を中心として、自然観察や森林セラピーなど、森林の魅力を満喫できる自然レクリエーションの場としての活用を図ります。

(*1)オーバーユース：森林利用者の著しい増加によって生じる、ゴミ、踏み荒らし、トイレ、水質汚染といった様々な問題を森林の「オーバーユース(過剰利用)」と呼びます。

【景観形成ガイドライン】

	配慮事項	参考例
<p>自然景観になじませる</p>	<p>周辺の景観に考慮し、勾配屋根を用いる、高さを抑えるなど、施設の配置や形態、意匠等に配慮する。</p>	
	<p>光沢性の高い金属素材等の大面積での使用は避ける。</p>	
	<p>周辺の自然景観に調和しやすい石材や木材などの自然素材を効果的に用いる。 殺風景になりがちな駐車場や資材等置場、日常の生活環境と区分したい墓地等の敷地周縁部に植栽を施し、周辺環境との調和を図る。</p>	
<p>自然の色彩に調和させる</p>	<p>建築物の外壁や屋根など広い面積で使用する色は、周辺の自然色との調和に配慮し、高彩度色の使用は避ける。 〔 P.24、25「用途地域別 色彩誘導ガイドライン」参照 〕</p>	
	<p>使用する色数を少なくする。</p>	
<p>自然の樹林地を保全・再生する</p>	<p>まとまりある樹林を保存するよう努める。やむを得ず伐採する場合も必要最小限にとどめる。</p>	
	<p>可能な範囲で周辺の樹木と調和した樹種や地域の自然植生を考慮した樹種による樹林地の再生を図る。</p>	
<p>現況の地形を活かす</p>	<p>現況の地形を活かし、長大な法面や擁壁が生じないように配慮する。</p>	
	<p>やむを得ず擁壁を設ける場合は、擁壁前面の緑化や化粧擁壁など、周辺への圧迫感の軽減を図る。</p>	

b 里山・田園景観

「丘陵の谷筋や斜面に形成された、厚木の原風景である農業集落」

【景観特性】

丹沢大山の麓に広がる丘陵部では、谷筋や斜面に農地と集落が形成され、本市の原風景となる里山景観を形成しています。

河川や水路等の水辺では、ホタルの生息など豊かな自然環境を形成しています。

往時の街道筋には、歴史的資源である寺社や歴史を伝える石碑などが見られます。

河川沿いの低地部には、田園や農園など四季の彩りある景観が私たちの生活にうるおいとやすらぎを与えています。

【課題】

農地の宅地転用による田園の市街化進行

地域の景観形成に活かされていない歴史・文化的資源

【想定する区域】

市街化調整区域のうち、「a 山地景観」以外の区域



七沢

【景観形成の目標】

地域に残る自然や歴史的資源の適切な維持・活用により、ゆとりと潤いを感じられる里山景観の保全・形成を目指します。

【景観形成の方針】

里山・田園景観に配慮した大規模な行為等の規制・誘導




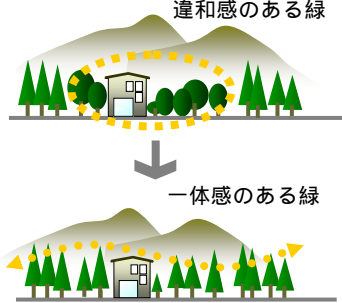
農地の宅地転用に伴う市街化の進行に対し、大規模な行為等における景観形成基準を定め、ゆとりと潤いを感じられるヒューマンスケール(*1)の里山景観の維持・保全に向けた景観の規制・誘導を図ります。

地域の歴史的資源を尊重した集落景観の形成

地域の歴史的な資源である寺社やその境内の樹木などを地域の歴史を物語る貴重な財産として、地域と一体になった保全に努めるとともに、特徴的な集落景観の形成に向けた積極的な活用を図ります。

(*1) ヒューマンスケール：人間の感覚や動きに適合した、適切な空間の規模や物の大きさのことをいいます。

【景観形成ガイドライン】

	配慮事項	参考例
<p>意匠や形態を自然景観になじませる</p>	<p>周辺の景観に配慮し、勾配屋根を用いる、高さを抑えるなど、施設の配置や形態、意匠等に配慮する。</p>	 <p>眺望の広がりを意識した配置や形態への配慮</p>
	<p>建物外観には光沢性の高い金属等の大面積での使用は避ける。</p>	 <p>光沢性の低い素材の使用</p>
	<p>建物の外観やフェンス等には周辺の自然景観に調和し、時間とともに味わいが出る、自然素材を効果的に使用する。</p>	 <p>木材や石材等の自然素材の活用</p>
<p>自然の色彩に調和させる</p>	<p>建築物の外壁や屋根など広い面積で使用する色は、周辺の自然色との調和に配慮し、高彩度色の使用は避ける。 〔 P.24、25「用途地域別 色彩誘導ガイドライン」参照 〕</p>	 <p>背景色との調和 色数の抑制 高彩度色の使用抑制</p>
	<p>使用する色数を少なくする。</p>	
<p>社寺林や屋敷林を保全する</p>	<p>敷地内に樹姿又は樹勢が優れた樹木がある場合は、保存又は移植を行う。</p>	 <p>違和感のある緑 ↓ 一体感のある緑</p>
	<p>緑化するにあたっては、周辺の樹木と調和した樹種や地域の自然植生を考慮した樹種を選定するなど、地域の特性を活かしたものとする。</p>	
<p>現況の地形を活かした造成とする</p>	<p>現況の地形を活かし、長大な法面や擁壁が生じないように配慮する。</p>	 <p>良好な斜面緑地の保全 法面の緑化</p>
	<p>法面が生じる場合も、緩やかな勾配とし、法面の緑化に努める。</p>	

配慮事項		参考例
緑化等により周辺環境と調和させる	殺風景になりがちな駐車場や資材等置場、日常の生活環境と区分したい墓地等の敷地周縁部に植栽を施し、周辺環境との調和を図る。	<p>敷地周縁部への植栽</p>
	やむを得ず擁壁を設ける場合は、擁壁前面の緑化や化粧擁壁など、周辺への圧迫感の軽減を図る。	<p>擁壁前面の緑化 化粧擁壁</p>

c 市街地景観

「様々な都市活動が創り出す、まとまりある都市的空間」

【景観特性】

本厚木駅前には多様な商業施設が充実し、多くの人を訪れるにぎわい空間として、歩道のバリアフリー化や無電柱化が進められ、すっきりとした道路空間が形成されています。比較的low層の住宅地が広がり、各所に落ち着きとまとまりのある住宅団地が形成されています。

市内には工業地が多く見られ、特に大規模工場や工業団地などでは豊かな緑に包まれた、整然とした街なみが形成されています。

【課題】

駅前商業地における大型で派手な色彩の屋外広告物の掲出

周辺環境から突出した色彩や形態の建築物の立地

街路樹や宅地内の緑の維持・保全

大規模施設や街区の大きな工業地が隣接する業務・商業や住宅地等へ与える圧迫感

【想定する区域】

市街化区域のうち、「d 新市街地景観」以外の区域



中町大通り



上依知



内陸工業団地



【景観形成の目標】

生活の基本空間である住宅地や商業・工業の産業地など、それぞれの利用特性に応じた景観誘導による街なみづくりを目指します。

【景観形成の方針】

建築等におけるデザイン意識の向上

個性を活かしながらも周辺景観との調和に配慮した色彩やデザインに対する設計者や建築主の意識向上を図り、住宅地、商業地、工業地といった、それぞれの地域の持つ機能を損なわない中で、景観においても質の高さを保つことにより地区の魅力を高めていきます。

また、周辺景観へ与える影響の大きい大規模な建築物等については、形態・意匠に関する景観形成基準を設け、規制・誘導による景観形成を行います。

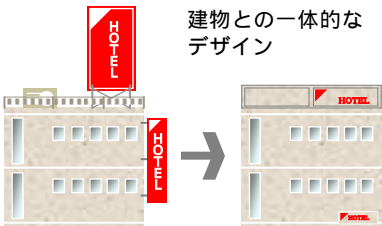
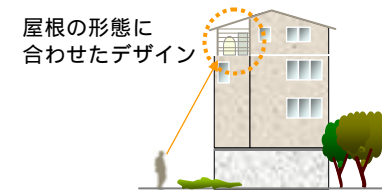
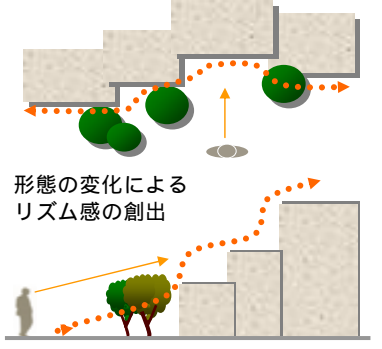
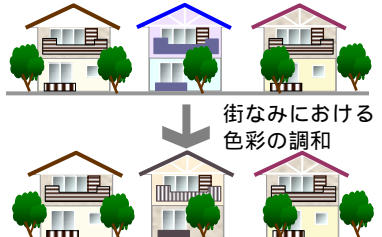

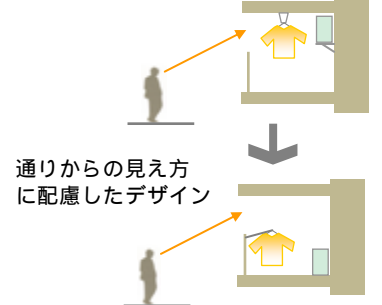
魅力ある歩行者空間の確保




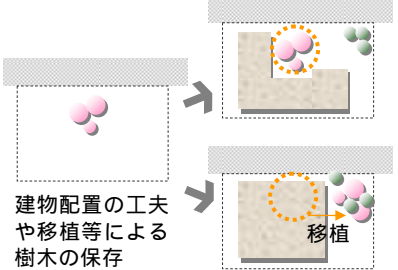
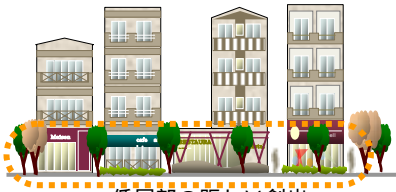
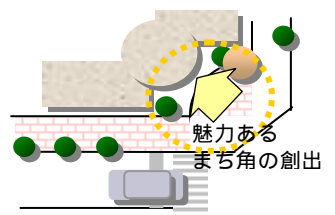

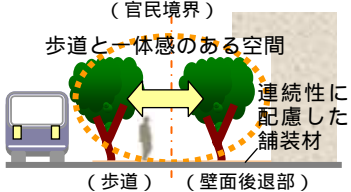
多くの人が集まる商業地等においては、緑陰のある街路樹の植栽、電線の地中化、デザインの統一されたストリートファニチャーの設置など、安全で快適な魅力ある歩行者空間の創出に努めます。

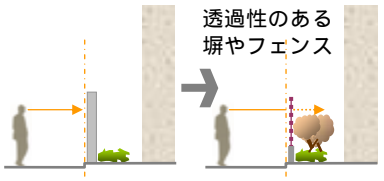
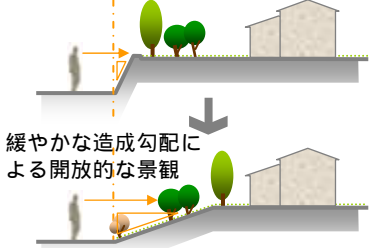
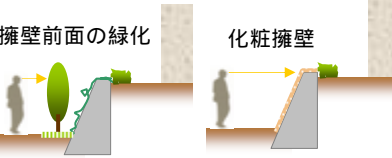
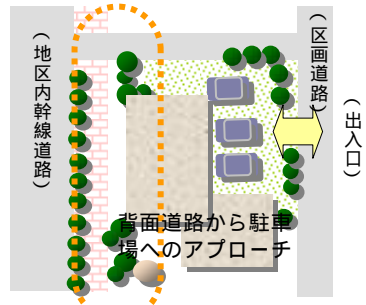
シンボル景観の活用

大山等の山なみが見える場所や通りなどの見通しを意識し、市街地内においてこれらのシンボル景観を街なみの中に取り込む工夫を行うことで、地域の心象風景を意識付けるとともに、来訪者に対しても地域の魅力をアピールします。

【景観形成ガイドライン】

	配慮事項	参考例
<p>街なみへの違和感・圧迫感を軽減する</p>	<p>建築設備や広告物は、その形態等のバランスに配慮し、建築物本体との一体的なデザインに努める。</p>	<p>建物との一体的なデザイン</p> 
	<p>広告物は集約化し、必要最小限の掲出とする。</p>	<p>屋根の形態に合わせたデザイン</p> 
	<p>周辺の景観に配慮した建物の高さや形状、配置、意匠等を工夫する。</p>	
	<p>大規模な集合住宅や工場・倉庫等の長大な壁面は、適度に分節するなど周辺への圧迫感の軽減と街なみとしてのリズムづくりに努める。</p>	<p>形態の変化によるリズム感の創出</p> 
	<p>建築物の外壁や屋根など広い面積で使用する色彩は、周辺の街なみとの調和に配慮する。 〔 P.24、25「用途地域別 色彩誘導ガイドライン」参照 〕</p>	<p>街なみにおける色彩の調和</p> 
	<p>大規模な工場や倉庫等は単調で圧迫感を与える配色を避け、形態の変化等に応じて色彩に変化を付けるなど、親しみの持てる色彩とする。</p>	<p>色彩の変化による圧迫感の軽減</p> 
	<p>共同住宅においては、洗濯物やエアコンの室外機が通りから直接見えないよう工夫する。</p>	<p>通りからの見え方に配慮したデザイン</p> 

	配慮事項	参考例
<p>緑化により潤いを創出する</p>	<p>殺風景になりがちな工場・倉庫や駐車場、大規模な工作物等の周りには積極的に緑化を行い、潤いある空間の形成に努める。</p>	<p>緑による潤いの創出</p> 
	<p>住宅等は、生垣又は四季を感じさせる樹木や草花による囲障を施す。</p>	<p>四季を感じさせる樹木や草花による囲障</p> 
	<p>ビル等では、屋上緑化や壁面緑化等により、まち並みにうるおいを与えるように努める。</p>	<p>屋上緑化や壁面緑化によるうるおいの創出</p> 
	<p>敷地内に樹姿又は樹勢が優れた樹木がある場合は、保存し、修景に活かすよう努める。</p>	 <p>建物配置の工夫や移植等による樹木の保存</p>
	<p>現在地での保存が難しい場合は移植の適否を判断した上で、可能な場合は敷地内への移植を行い、良好な樹勢の維持・回復を図る。</p>	
<p>商業地のにぎわいと魅力ある景観をつくる</p>	<p>低層部（1・2階部分）においては、ショーウインドウの設置や照明による演出、サインの設置等により、にぎわいのある魅力的な景観を演出する。</p>	 <p>低層部の賑わい創出</p>
	<p>人通りの多い道路の交差点では、まち角を意識した意匠やオープンスペースの確保など、魅力あるまち角の演出に努める。</p>	 <p>魅力あるまち角の創出</p>
	<p>彩度の高い色彩をアクセントとして使用する場合は、建物全体でのバランスに配慮し、低層部に小面積で効果的に使用する。</p>	 <p>低層階での効果的なアクセント色の使用</p>
	<p>接道部の低層階は適度に壁面後退を行い、歩道との連続性に配慮した舗装材とするなど、歩道と一体感のある空間を創出する。</p>	<p>(官民境界)</p> <p>歩道と一体感のある空間</p>  <p>連続性に配慮した舗装材</p> <p>(歩道) (壁面後退部)</p>

	配慮事項	参考例
安全で快適な歩行者空間を確保する	歩行者の視線を遮る透過性のない塀やフェンス等の設置は避ける。	 <p>透過性のある塀やフェンス</p>
	造成等による切土又は盛土が生じる場合、敷地に余裕がある場合は緩やかな造成勾配とし、開放的な道路景観をつくる。	 <p>緩やかな造成勾配による開放的な景観</p>
	やむを得ず擁壁を設ける場合は、擁壁前面の緑化や化粧擁壁など、周辺への圧迫感の軽減を図る。	 <p>擁壁前面の緑化 化粧擁壁</p>
	駐車場は建物前面への配置は避け、できるだけ背面等に集約化し、地区内幹線道路からのアプローチは行わないようにする。	 <p>(地区内幹線道路) (区画道路) (出入口)</p> <p>背面道路から駐車場へのアプローチ</p>

d 新市街地景観

「都市と自然が共存する、新たな市街地空間」

【景観特性】

まつかげ台やみはる野などには、丘陵地の自然と住宅が共存した新たな市街地景観が創出されています。

森の里は建築協定等により、建物前面の緑化、建物の色や形、大きさ等に統一感があり、調和の取れた美しい街なみが形成されています。

【課題】

緑と調和した良好な景観の維持・保全

【想定する区域】

面的開発等のまとまりある地区



森の里



【景観形成の目標】

地域コミュニティに基づいた地区固有のルールを継承し、市民が地域への愛着が持てる美しい街なみの維持・形成を目指します。

【景観形成の方針】

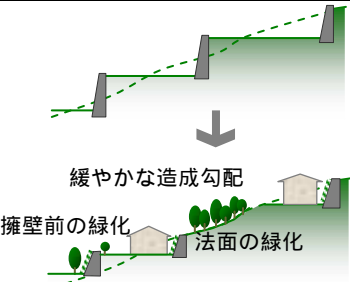
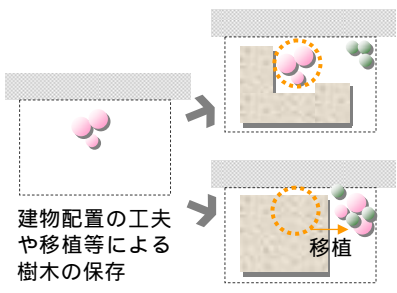
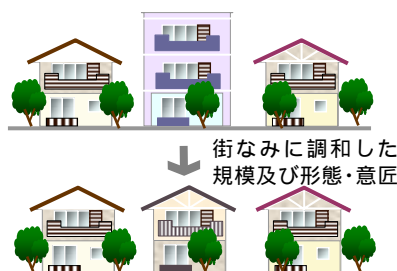

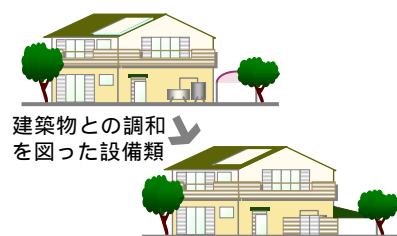
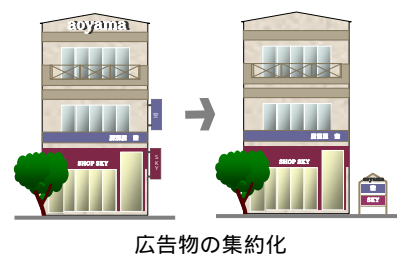
緑と調和した良好な景観の維持

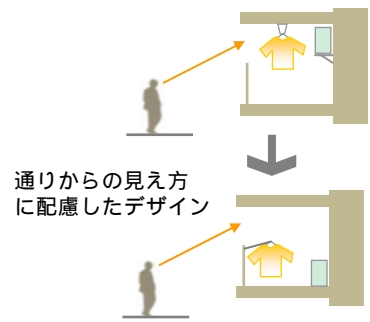
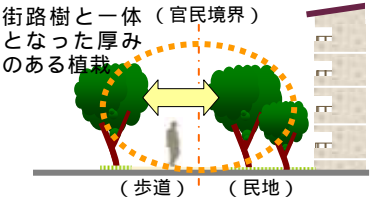
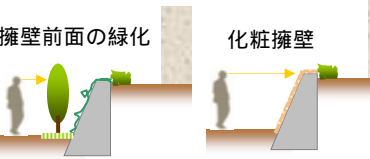
住宅団地などにおいて、地区固有のルールが設けられている地区においては、これらのルールを今後も継承し、景観を地区の個性としてまちづくりの中に積極的に活かしていくことが望まれます。

新たな面的開発地における個性づくり

住宅団地のほか、商業業務・工業地等の面的開発を行う場合は、地区指定等により、建物のデザインや緑化に関する地区特有のルールを付加し、個性ある街なみを形成します。

【景観形成ガイドライン】

	配慮事項	参考例
<p>現況の地形や植生を活かす</p>	<p>造成等による切土又は盛土が生じる場合は、緩やかな勾配とし、緑化に努める。</p>	
	<p>敷地内に樹姿又は樹勢が優れた樹木がある場合は、保存し、修景に生かすよう努める。</p> <p>現在地での保存が難しい場合は移植の適否を判断し、可能な場合は近隣への移植を行い、良好な樹勢の維持・回復を図る。</p>	 <p>建物配置の工夫や移植等による樹木の保存</p>
<p>地区の景観特性をデザインに活かす</p>	<p>周辺の景観に配慮した建物の高さや形状、配置、意匠等を工夫する。</p>	 <p>街なみに調和した規模及び形態・意匠</p>
	<p>地区内のデザインテーマを設定し、形態や素材等に関して共通のデザイン要素を用いることにより、まとまりのある景観形成を図る。</p>	 <p>共通のデザイン要素の導入</p>
<p>落ち着きとまとまりのある景観をつくる</p>	<p>建築設備や広告物は、その形態やデザインに配慮し、建築物本体との調和を図る。</p>	 <p>建築物との調和を図った設備類</p>
	<p>広告物は集約化し、必要最小限の掲出とする。</p>	 <p>広告物の集約化</p>

	配慮事項	参考例
<p>落ち着きとまとまりのある景観をつくる</p>	<p>建築物の外壁や屋根など広い面積で使用する色彩は、周辺の自然や街なみとの調和に配慮する。 〔 P.24、25「用途地域別 色彩誘導ガイド」ライン」参照</p>	
	<p>屋根や外壁等に使用できる色彩(色相、彩度)をさらに絞り込むことで、まとまりのある景観形成を図る。</p> <p>共同住宅においては、洗濯物やエアコンの室外機が通りから直接見えないよう工夫する。</p>	
	<p>主要な道路沿いでは、街路樹と一体となって厚みのある緑の帯を創出する敷地内緑化を積極的に行う。</p>	
	<p>やむを得ず擁壁を設ける場合は、擁壁前面の緑化や化粧擁壁など、周辺への圧迫感の軽減を図る。</p>	
	<p>殺風景になりがちな駐車場等の周縁部に植栽を施し、周辺景観との調和を図る。</p>	

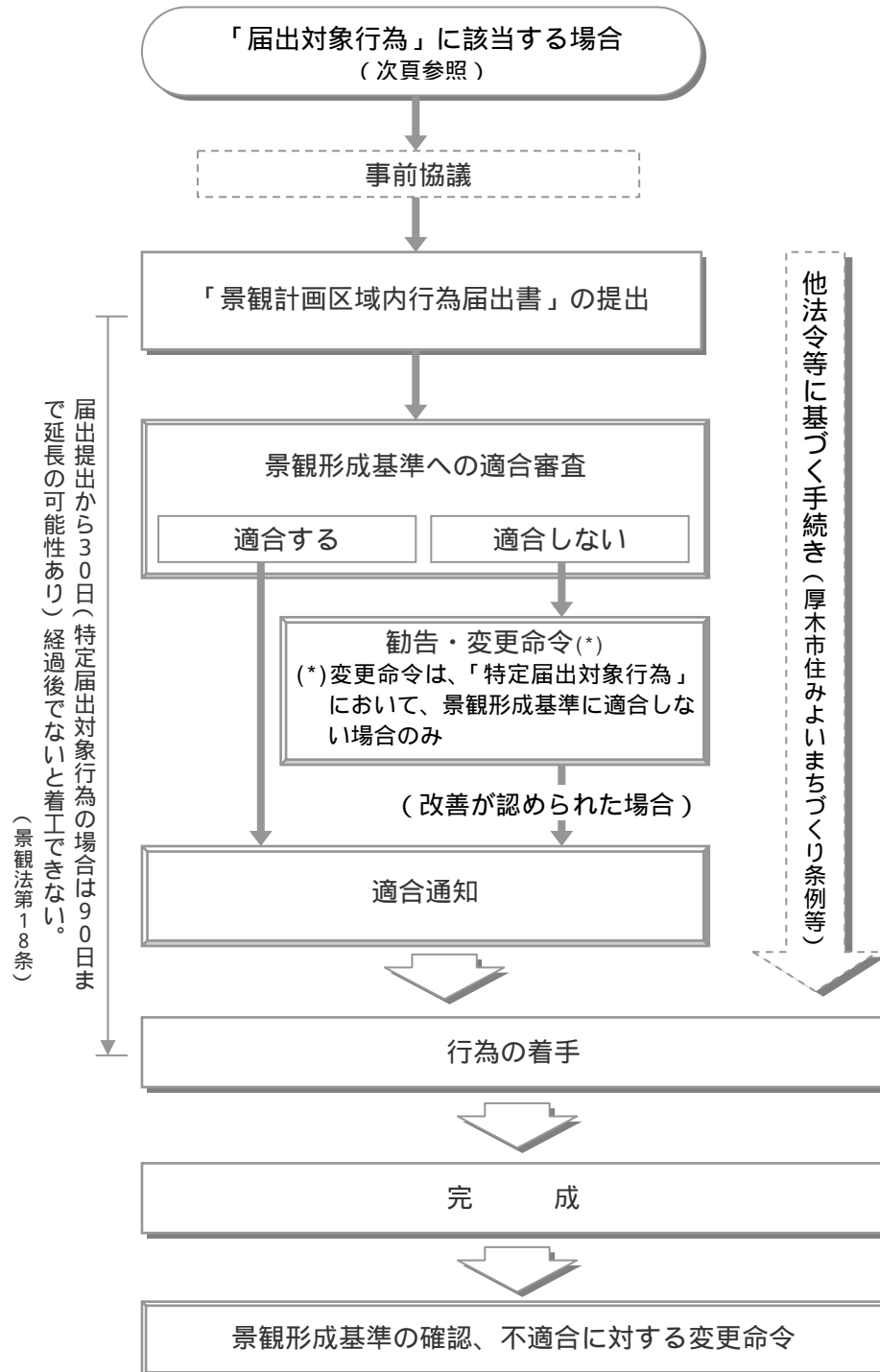
2 建築物の建築等における景観誘導

《良好な景観の形成のための行為の制限に関する事項（法第8条第2項第3号関係）》

(1) 行為の届出制度（法第16条第1項関係）

行為の届出制度の手続きは、下図のような流れで行います。

次頁に示す「届出対象行為」に該当する場合は、「景観計画区域内行為届出書」を提出し、景観形成基準への適合審査を受ける必要があります。



【届出対象行為】

下記に示す行為を法第 16 条第 1 項に基づく「届出対象行為」として定めます。

工作物は建築基準法施行令第 138 条に規定するもの及び高さ 10m を超え 15m 以下の鉄筋コンクリート造の柱、鉄柱、木柱その他これらに類するもの（旗ざお並びに架空電線路用並びに電気事業法第 2 条第 1 項第 10 号に規定する電気事業者及び同項第 12 号に規定する卸供給事業者の保安通信設備用のものを除く）とします。

【特定届出対象行為】

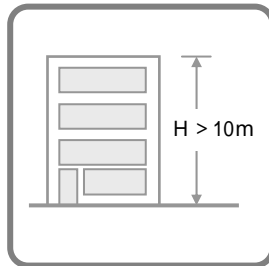
届出対象行為のうち、「建築物」及び「工作物」に関する行為を法第 17 条第 1 項に基づく「特定届出対象行為」とします。これらの行為が景観形成基準に適合しない場合、市長は変更命令等を出すことも可能です。

特定届出対象行為

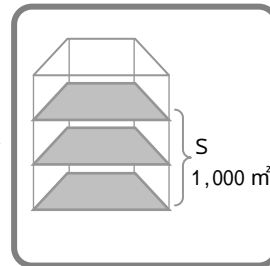
届出対象行為

建築物

新築、増築、改築若しくは移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替又は色彩の変更



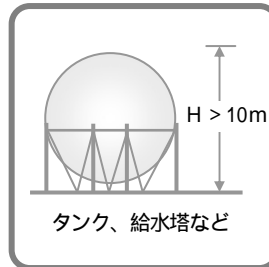
又は



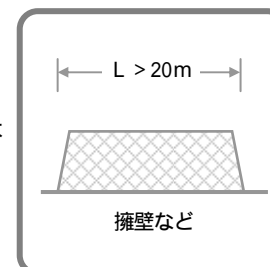
当該建築物の高さが 10m を超えるもの
又は
床面積の合計が 1,000 m² 以上のもの

工作物

新築、増築、改築若しくは移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替又は色彩の変更



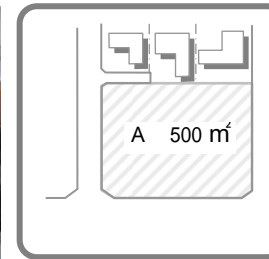
又は



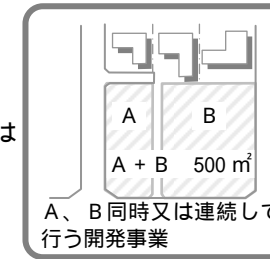
当該工作物の高さが 10m を超えるもの
又は
長さが 20m を超えるもの及び同時に設置されるもので長さの合計が 20m を超えるもの

開発行為

都市計画法上の開発行為



又は

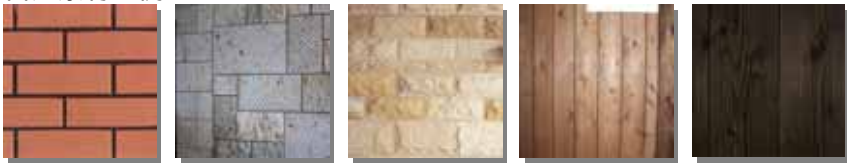
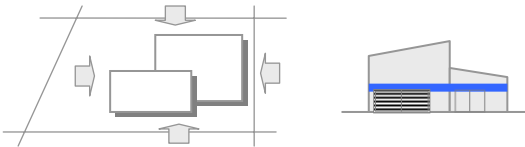


事業区域面積が 500 m² 以上であるもの
又は
隣接する区域が同時又は連続して行われる事業で合計面積が 500 m² 以上であるもの

(2) 景観形成基準 (法第8条第3項第2号関係)

(1)で定めた届出対象行為において、以下に定める基準に適合しないと認められる場合は、その届出に係る行為に関して設計変更等の措置の勧告や変更命令を行うことができます。

《建築物又は工作物の形態又は色彩その他の意匠に関する基準 (法第8条第3項第2号イ関係)》

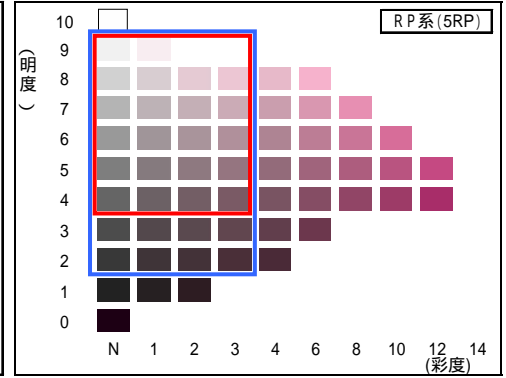
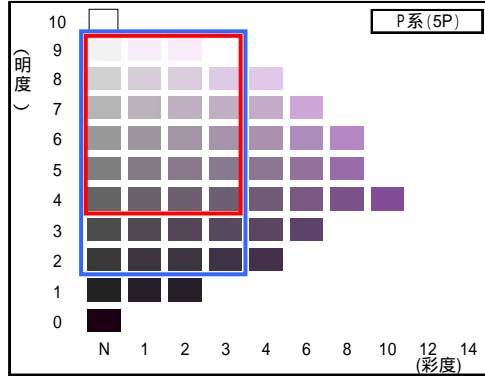
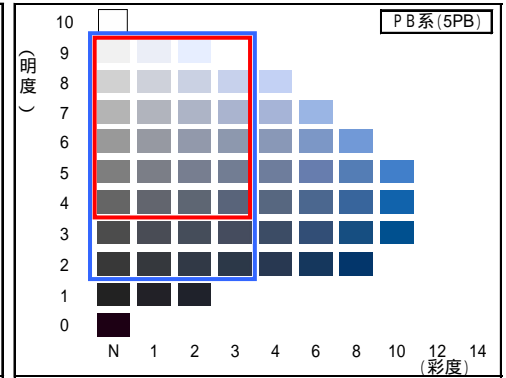
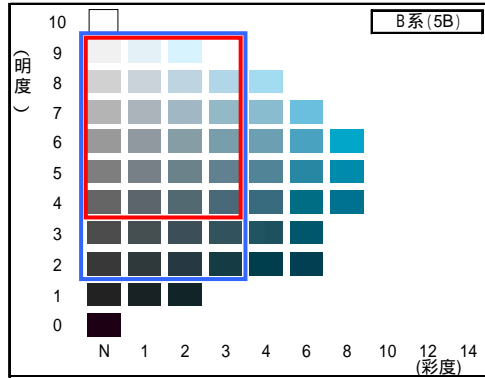
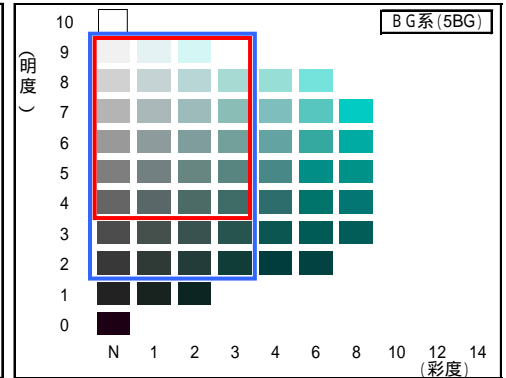
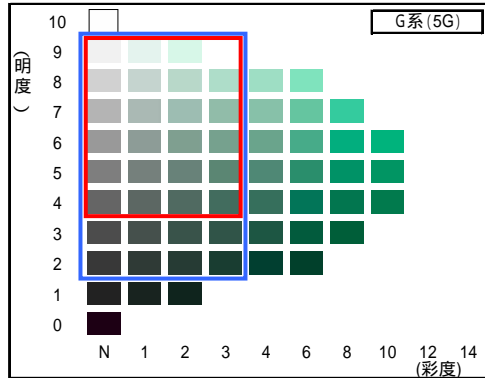
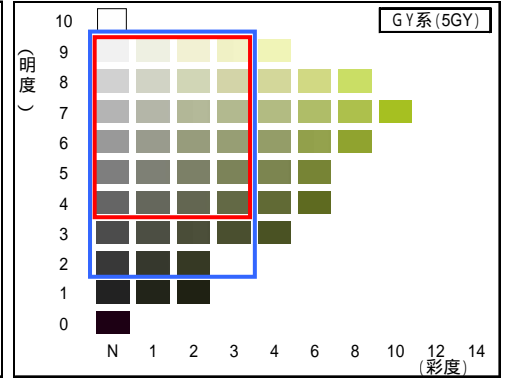
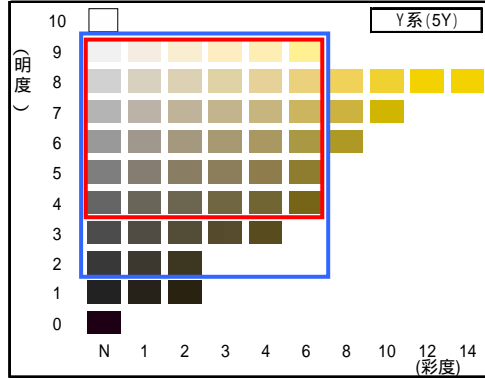
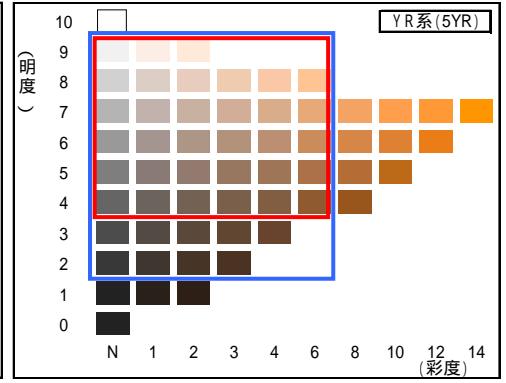
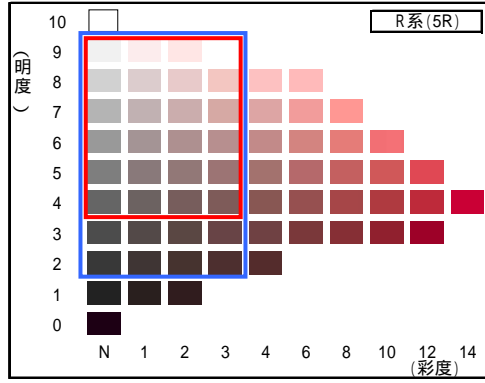
		基 準				
建築物等の色彩	<p>建築物等の外観に用いる色彩は、以下に掲げる範囲とする。ただし、表面に着色していない自然素材の色彩及び商業系用途地域（商業地域、近隣商業地域）内において、小面積（立面積の5%以内）で使用するアクセント色についてはこの限りではない。</p> <p>【自然素材の例】</p>  <p>赤レンガ 大谷石 諫早石(砂岩) 杉板 焼杉板</p> <p>【アクセント色の算定方法】</p>  <p>各立面において、立面積の5%以内において使用する色彩（アクセント色）は、下表によらなくても良い。</p>					
	色彩基準（マンセル値）					
	市街化区域 〔市街地景観 新市街地景観〕	色相	外壁色		屋根色	
			明度	彩度	明度	彩度
YR(黄赤)、Y(黄)		4以上	6以下	2以上	6以下	
N(灰)	9以下	-	9以下	-		
その他の色相		3以下		3以下		
市街化調整区域 〔山地景観 里山・田園景観〕	色相	外壁色		屋根色		
		明度	彩度	明度	彩度	
	YR(黄赤)、Y(黄)	4以上	4以下	2以上	4以下	
N(灰)	9以下	-	9以下	-		
その他の色相		2以下		2以下		

市街化区域の色彩基準

市街地景観
新市街地景観

外壁色

屋根色

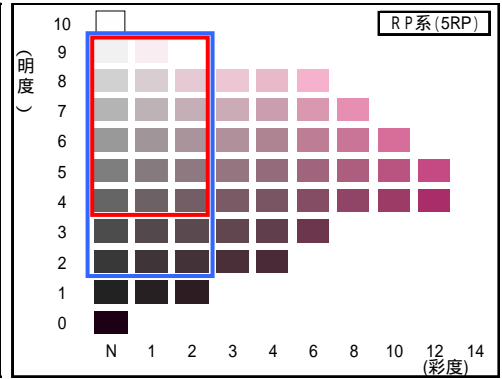
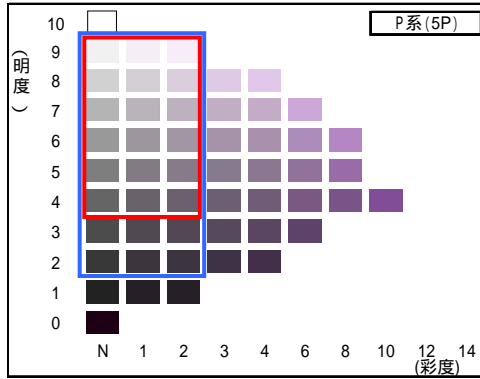
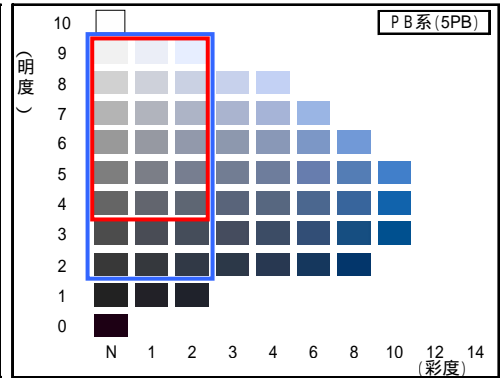
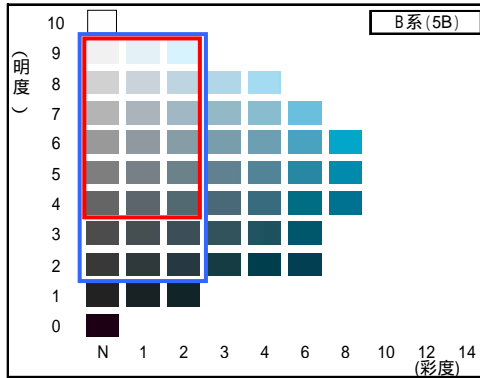
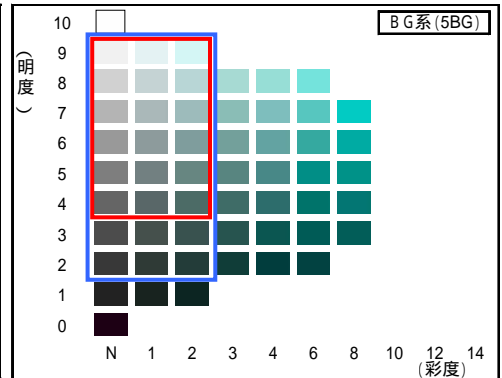
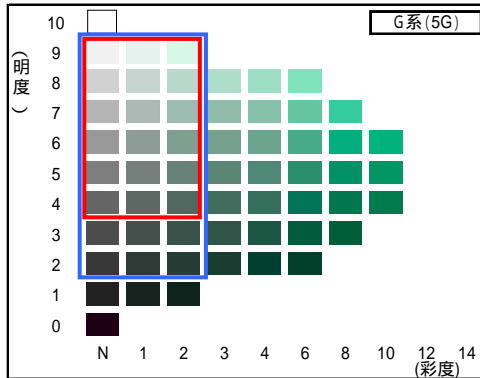
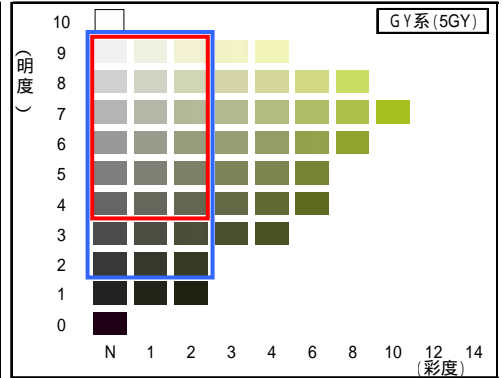
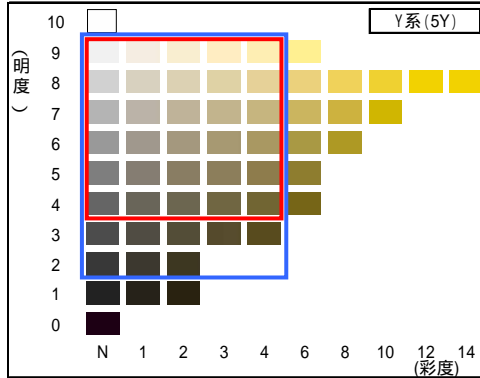
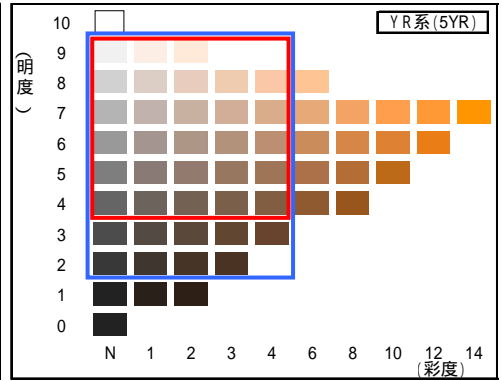
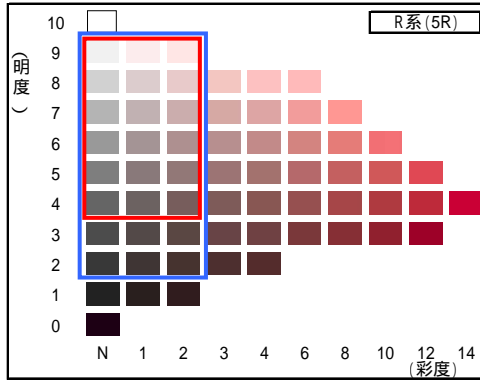


市街化調整区域の
色彩基準

〔 山地景観
里山・田園景観

外壁色

屋根色



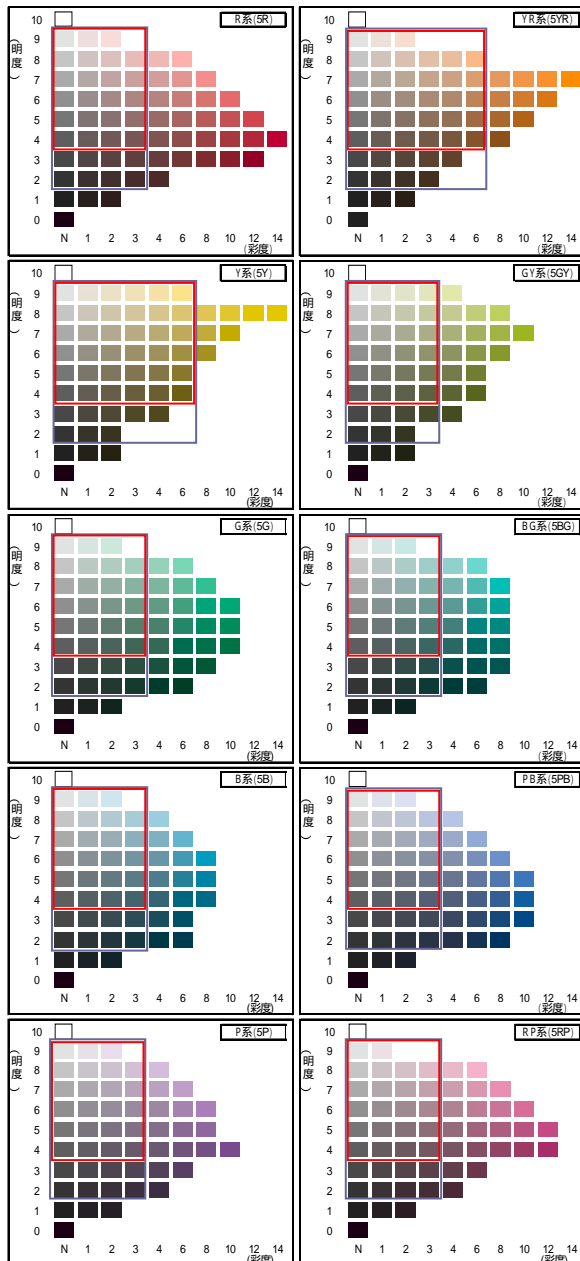
印刷のため実際の色彩と異なる場合があります。

《用途地域別 色彩誘導ガイドライン》

全市共通の色彩基準はP.21に示すとおりですが、土地利用に合わせて更に配慮することによって、より地域特性にあった色彩景観となります。ここでは、用途地域ごとの色彩の推奨範囲を示します。

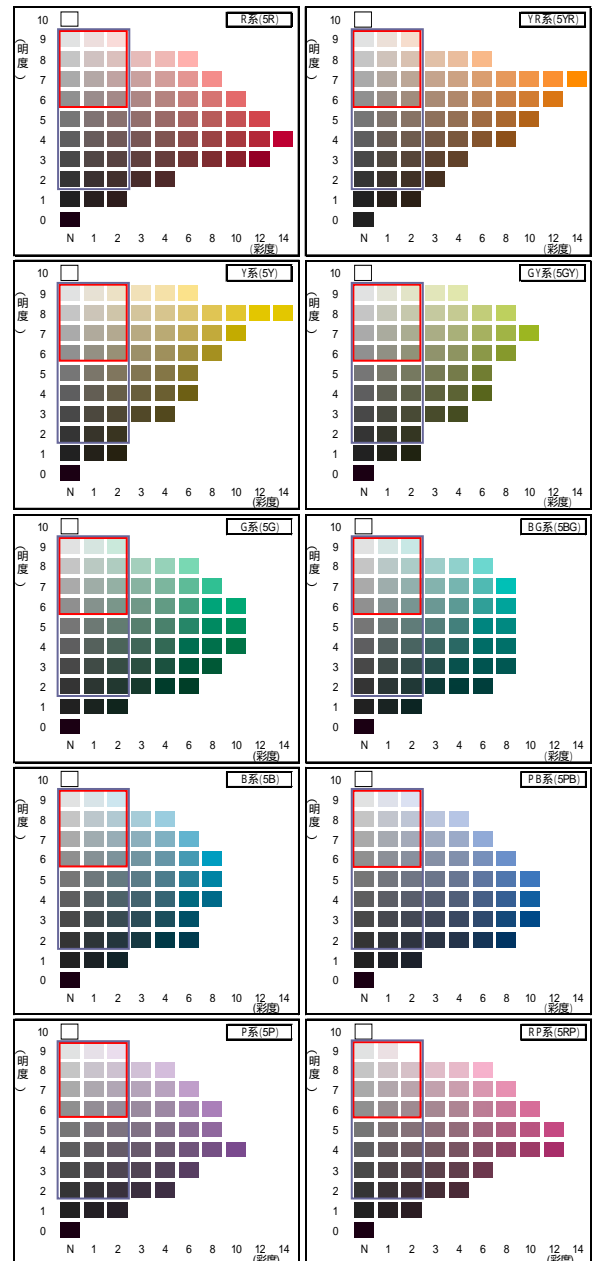
商業系用途地域（商業・近隣商業）

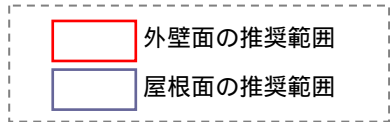
商業地の賑わい及び建物の個性を表現できるよう、色彩基準を広く使えるようにする。



工業系用途地域（工専・工業・準工業）

大壁面の工場や倉庫等においては、周辺への圧迫感を軽減するため、低彩度で明るい色彩を壁面に用いる。





住居系用途地域

日常生活空間として、あまり突出的にならず、温かみの感じられるよう、暖色系の低彩度色を壁面に用いる。



市街化調整区域

上からの視線にも配慮し、背景となる自然の緑に調和するよう、低彩度高明度の色彩を壁面に、低彩度低明度の色彩を屋根面に用いる。

